平野ロジスティクス関西支店

専用車で医薬品輸送強化

セキュリティー品質さらに向上

平野ロジスティクス（本社＝神戸市、田中英治社長）の関西支店は、医薬品輸送を強化するとともに、高度なセキュリティー品質を生かす形で、顧客ニーズに対応している。医薬品輸送専用の大型温調車あるいは4㌧温調車を活用して柔軟な対応を可能としており、GDP、CEIVファーマ認証などの基準も意識した形で品質をさらに向上させる構えだ。セキュリティーに関しては、AEO制度の特定保税運送者の認証を受けている。同認証をベースにしながら、顧客ニーズを把握することで、セキュリティー品質のさらなる向上につなげる方針だ。

田中基康・西日本担当営業部長

平野ロジスティクス関西支店はりんくう国際物流センター（大阪府泉佐野市りんくう往来北）にオフィスを構える。昨年11月に関西国際空港の第二代理店ビルに倉庫を確保。関空に到着する輸入貨物の通関後の一時留め置き、あるいは関空から搭載される輸出貨物の通関前の一時留め置きなどの機能を提供する施設として活用している。今後、保税蔵置場としての要望があれば、保税許可の取得および施設面積の拡大も検討する方針だ。

医薬品輸送専用の大型温調車

関西支店は大型車を中心に約40台を運用している。96㌢仕様のULDを4台搭載できるセミ・トレーラー車「＋1」（プラス・ワン）も3台運用しており、年内にもヘッド1台を増強。計4台を運用する体制とする計画だ。

空港間の保税転送（OLT）に関しては、航空会社は40社超、フォワーダーは10社超から受託している。関空―中部―成田を中心とした長距離のOLTでは「＋1」が活躍している。

現在、フォワーダーからULDに仕立てる前のバラ積み貨物輸送のニーズも高まっているという。顧客のコストメリット、ダメージ防止などの品質を踏まえながら、バラ積み貨物対応の大型車導入も計画している。

関西支店では医薬品対応の温調車は現在、4㌧1台、大型車3台を運用している。引き合いも多く、GDPあるいはCEIV認証の基準に対応した輸送体制・品質の構築に積極的に取り組む方針だ。平野ロジスティクスの田中基康・西日本担当営業部長兼関西支店支店長は「各種認証への対応を可能にするには医薬品に特化した車両が重要になる。医薬品メーカーの意向なども踏まえながら、精度の高い医薬品専用の温調車の導入を進める」と話す。

また、関西支店は、輸出貨物の通関前、あるいは輸入貨物の通関後の国内輸送にも力を入れている。各地の事業者との協力関係も構築。協力関係者間で品質水準を確保、向上させながら、例えば九州への翌日配送サービスも提供している。

平野ロジスティクスは2013年6月に西日本、神戸税関で初めてAEO制度の特定保税運送者の承認を取得。認定通関業者との連携の下で、特定委託輸出申告制度を利用した高度なセキュリティーサービスを提供。こうしたAEOに裏打ちされたセキュリティーサービスも強みだ。

高度なセキュリティー品質・レベルを積極的に周知するとともに、監査などを通じてフォワーダーからの要望を受け入れて、さらなるセキュリティー品質・レベルの向上に努めている。田中部長は「お客さまには積極的に監査に来てください、とお願いしている。それによって、新たな〝気づき〟が生まれることもあり、それを参考に、これまで以上のセキュリティー品質・レベルを構築できる。そして、それをお客さまに還元したい」と話す。

平野ロジスティクスは、LD3コンテナ換算でULDを13台搭載できる「＋7」、96㌢パレット仕様のULDを5台搭載できる「＋2」、4台搭載できる「＋1」といった新型トレーラーを顧客ニーズに則した形で運用している。トレーラーの増強も順次、実施している。

また、例えば関西―成田間の輸送において、静岡県内に中継拠点を設定して、この中継拠点で、トレーラーを入れ替える形で、ドライバーが発地に戻ることを可能とする中継輸送にも積極的に取り組む方針だ。

日本企業との共同研究開発2年延長

エアバス

エアバスはこのほど、航空機の複合構造における構造健全性診断技術（SHM）開発で、日本との共同研究開発「JASTAC」（The Japan Airbus SHM Technology for Aircraft Composite）を2年間延長して2018年まで継続することを発表した。JASTACは06年のファーンボロ国際航空ショーで発足した。エアバス、RIMOF技術研究組合、三菱重工工業、川崎重工業、富士重工業、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が参加している。

SHMは航空機の複合材構造の中に埋め込んだ光ファイバーによって、航空機向けに使用が増加している炭素繊維強化プラスチック（CFRP）の肉眼では確認できない損傷を発見し、健全性を評価するシステム。JASTACはSHM技術をベースとした光ファイバーを開発するため、同社と日本の技術者が共同試験を土台に技術検証と成熟度評価を実施している。

エアバスのステファン・ジヌー社長は「今後、複合材を多用した航空機は増加し、SHMは大きな役割を果たすだろう。JASTACのプログラムで日本の産業パートナーと共同研究開発ができることをうれしく思う」と話した。

「空の日」「空の旬間」全国の空港でイベント

9月20日は「空の日」、20日から30日は「空の旬間」で、航空関係功労者の国土交通大臣表彰や全国の空港などでイベントが開催される。民間航空再開40周年にあたる1992年、より多くの人たちに航空に対する理解と関心を高めてもらうことを趣旨として「空の日」「空の旬間」が定められた。今月20日には国土交通省で航空関係功労者大臣表彰が行われる。

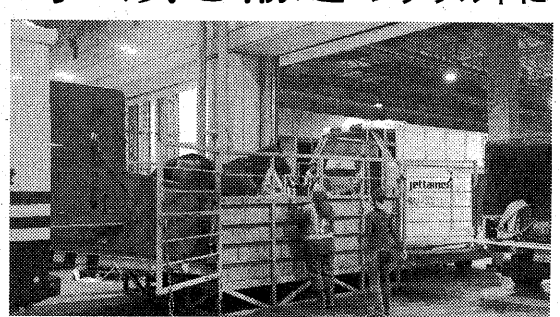
また全国の空港などで管

ルフトハンザカーゴ

馬2頭を輸送

成田からフランクフルトに

ルフトハンザカーゴは9日、成田発フランクフルト向け貨物便（機材はB777F型機）で馬を輸送した。国際空港上屋（IACT）B棟で、馬専用コンテナ「HMJ」に乗せる作業を慎重に行い、同日21時40分成田発8387便（仁川経由）に搭載。現地時間翌日6時40分、同便は定刻通りフランクフルトに到着。馬



専用コンテナ「HMJ」に馬を誘導する様子（成田空港）

鋭機B777である当社ハニマル・ラウに高品質な輸た」とコメンで乗用馬輸送触れ「今回のめとした動物ス品質をアピ

同社のアー000平方メを備えており体制で、専アにあたって

2頭物重で受け引統括

エアカーゴ最前線2016

北海道編〈3〉

現在、午前8時～午後9時。これを、10月には深夜時はこれまで日本航空や全日空輸（ANA）から借りていたが、24時間の貨物取り扱いに備え、ドーリーおよび牽引の取扱量が激減した。

体制面では、今後の同空港の運営民間委託も見据え、北海道庁が強力に関わる体制と